

小鹿野歌舞伎の中学校での実践とその教育的効果について

* 佐藤 節子

Ogano Kabuki Practice in Middle School and its Educational Impact

SATO Setsuko

Abstract

This study consisted of two components. Part one was a survey of literature related to the way folk performing arts are learnt in schools and its educational effect on students. This survey showed that students developed an enthusiastic attitude and learnt to appreciate and enjoy dancing through activities in their physical education classes. Using folk performing arts as a part of their annual sports day and other activities, deepened their sense of unity and connection with the local community. As a part of the Integrated Study classes, they enhanced their understanding of folk performing arts and developed in them a sense of pride in their hometown. These are the major findings of previous studies on the subject.

In the second part of this study, data were collected from an experiential kabuki lesson at a middle school. Questions were drafted based on the data acquired from part one; the students who took classes in kabuki were asked to complete a questionnaire. The results showed that the students had strong sense of positive feelings about continuing the tradition, unity and achievement. They also had sense of understanding about the local area, love for their hometown and achievement of new body movement had not experienced before. These educational effects were as anticipated.

Key words : Folk performing arts (民俗芸能)

experiential kabuki class (歌舞伎体験学習)

middle school (中学校)

educational effect (教育的効果)

1. はじめに

文部科学省による小・中・高等学校の体育の分野の指導内容の体系化は表1のとおりである。表1の表現運動及びダンス領域に着目すると、小学校低学年では表現・リズム遊び、中・高学年では表現運動、中学・高等学校ではダンスと名称変更する。これらは表2に示すように、ア.表現(遊び)・創作ダンス、イ.フォークダンス、ウ.リズム(遊び)ダンス・現代的なリズム

ムのダンスの3つに分類される。これら3つのダンスの特徴と重点的な内容を表3に示す。

表3の右端の「フォークダンス」には伝承されてきた日本の「民踊」が含まれる。「民踊」とは民俗舞踊や民謡舞踊を指す(菱田・岩川, 2012, p.67)。民俗舞踊は民俗芸能の一つに位置づけられるが、民俗芸能を学ぶということは、表3のフォークダンスの欄に示された「伝承された踊りを身に付けてみんなで一緒に踊って交流する。」という特性や「踊りの背景や特徴を捉え

* 保健体育講座

て味わい、皆で踊る。」という技能内容以外に多岐に広がっており、体育の領域に収まり切らないと考えられる。

筆者が追跡研究している埼玉県秩父郡小鹿野町に伝承される小鹿野歌舞伎の体験学習は、中学校の総合的な学習の時間に行われている。2002(平成14)年度から取り組みが始まり、小鹿野町立の三田川中学校と長若中学校で行われた。図1は2015(平成27)年3月14日に撮影した写真で、本番前に地元の歌舞伎保存会¹の方々が地域に保存されている衣装を長若中学校の生徒たちに着付けている。小鹿野町長若地区は明治・大正期に活躍した歌舞伎一座「大和座」や「天王座」の本拠地である。これらの一座は、夏は農業を行い、冬になると各地の舞台を巡って生活していた。歌舞伎衣装・大道具収蔵庫の所在地でもあり、収蔵庫は三代目音羽屋坂東彦五郎²の孫にあたる三枝健一さん宅の敷地にある。その長男の藤太郎さんが保存会の衣装・小道具の責任者を担っており、町内各部会³の上演のたびに貸し出しをしている。

小鹿野町般若にある日本武神社(十六様)の神楽殿で行われた「日本武神社祭り」において、長若中学校は「菅原伝授手習鑑 吉田社頭車引之場」を上演した。8人の役者と、9人の義太夫や下座三味線、舞台上手で間合い良く木を床に打って効果音を出すつけ、および黒衣は中学2、3年生が担当した。柝(拍子木)と太鼓は教諭2人が行っていた。準備の様子を見学した

が、化粧は自分たちで行い、衣装の着付けやかつらの装着は小鹿野歌舞伎保存会の人々が行った⁴。

両校は2016年(平成28)年4月、町立小鹿野中学校に統廃合した。学校統廃合に伴い、民俗芸能の継承活動を停止する事例もあるが(卯田2016)、新たに誕生した小鹿野中学校では、統廃合前の実践を引き継いだ。総合的な学習は、2018年には「歌舞伎学習班」「自然・文化班」「森林学習班」「文学研究班」の4班で取り組んだ。「歌舞伎班」は2016年(平成28年)から毎年郷土芸能祭に参加し、「青砥稿花紅彩画 白波五人男稲瀬川勢揃之場」を上演した。指導は小鹿野歌舞伎保存会が担当し、演技、黒衣、化粧、三味線、太鼓、つけなど役者から裏方までの役割を生徒たちが分担する。図2は2017(平成29)年11月19日の歌舞伎・郷土芸能祭での小鹿野中学校生による歌舞伎上演の写真で、舞台中央に日本駄右衛門、弁天小僧菊之助、忠信利平、赤星十三郎、南郷力丸の盗賊五人組が、左右には捕り手たちが立っている。右手前にはつけが座り、左奥には太鼓が立ち、右奥には下座三味線の生徒たちが座っている。

2. 目的

このように民俗芸能は体育の授業の中に収まり切れない要素が多くある。体育の中で扱う民踊について、独特の身体技法の会得を通して新たな身体感性を

-
- 1 小鹿野歌舞伎は明治・大正期に最盛期を迎えたが、1955年(昭和30年代)以降は衰退していった。故郷の大切な文化遺産を守ろうという機運が高まり、旧大和座系の役者と町内各地で地芝居を続けてきた人たちが合同して1973年(昭和48年)に小鹿野歌舞伎保存会が結成された。「小鹿野の歌舞伎芝居」は1975年(昭和50年)に埼玉県指定無形文化財となり、1977年(昭和52年)に無形民俗文化財に変更となった。歌舞伎保存会はその保護団体として指定を受けている。
 - 2 初代坂東彦五郎は1804～30年の文化・文政期に活躍した秩父歌舞伎の祖である。秩父地方で一座芝居を組織し、その後勇佐座、天王座、大和座と引き継がれた。
 - 3 小鹿野歌舞伎の組織は小鹿野歌舞伎保存会傘下団体と非傘下団体に分かれる。傘下団体は小鹿野、津谷木、上飯田、十六の4部会と各部会配下の子供歌舞伎である。各部会で奉納の祭りを行うとき、他の部会の者は裏方として協力を互いにする。県内外から出演の依頼があったときは、各部会から人を集め小鹿野歌舞伎あるいは小鹿野子ども歌舞伎として出演をする。一方、非傘下団体には奈倉女歌舞伎と奈倉子とも歌舞伎、小森祭りと文化を守る会とその配下の子ども歌舞伎、歌舞伎サークルうぶ、小鹿野中学校、三田川小学校がある。それぞれ独立した団体として活動しており、伝統を打ち破って新たな展開を試みている。これらの団体は、非傘下といえども小鹿野歌舞伎保存会の協力抜きでは存続が難しいのが現状である。
 - 4 一般的に歌舞伎を上演するとなると、劇場の確保、指導者や囃子方の招聘、衣装や小道具の調達、大道具の制作と組み立て、照明や音響などの劇場スタッフ、広報やマネジメントなどマンパワーに莫大な費用がかかる。しかしながら小鹿野町内には舞台が11か所もあり、役者以外のスタッフが多くおり、歌舞伎の挙行を支えている。役者が付けるかつらの床山を40年ほど前から務める者、化粧担当者として日々工夫を重ねる人々、着付け担当者、昔からある地芝居のかたちを残すために使命感を燃やして指導をする師匠、黒衣を担当する「くろこ組」、役者のセリフの間に三味線を弾きながら物語の筋などを語る太夫などがおり、裏方すべてを町民が先輩から受け継いで行っている。

学ぶことを樋口(2003)は期待しているが、はたして学校の授業の中でそこを指導しているのだろうか。中村(2001)は地域の伝統芸能・踊りの教材化の意義として①郷土の芸能・踊りの価値を認識させ、誇りを持たせる。②芸能・踊りに内在する郷土の表現性や精神性を学ばせる。③地域社会との連携を深める。ことを挙げているが、こうしたことが浸透しているのだろうか。

か。

本研究では研究1として、民俗芸能の学習は学校の授業の中でどのように行われているのかを探るため、文献資料をもとに、その教育的効果について考察する。

次に研究2として、中学校で行われている歌舞伎学習の実態を取材し、上記の教育的効果が実際に浸透しているのかを検証する。

表1 小・中・高等学校の体育の分野の指導内容の体系化(文部科学省)

小学校			中学校	高等学校
1・2年	3・4年	5・6年	1・2・3年	入学・それ以降の年次
体づくりの運動遊び	体づくり運動			
器械・器具を使つての運動遊び	器械運動			
走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動	陸上競技	
水遊び	浮く・泳ぐ運動	水泳		
表現・リズム遊び	表現運動		ダンス	
ゲーム		ボール運動	球技	
			武道	

表2 表現運動及びダンス領域の内容構成(文部科学省)

学 年	小学校低学年	小学校中・高学年	中・高等学校
領域名称	表現・リズム遊び	表現運動	ダンス
内 容	ア. 表現遊び イ. リズム遊び (リズム遊びに簡単なフォークダンスを含む)	ア. 表現 イ. リズムダンス (フォークダンス)	ア. 創作ダンス イ. フォークダンス ウ. 現代的なリズムのダンス

表3 ダンス3分類ごとの特徴と重点的な内容(文部科学省)

	表現(小)・ 創作ダンス(中・高)	リズムダンス(小)・ 現代的なリズムのダンス(中・高)	フォークダンス (小・中・高)
運動の特性 (楽しさや魅力)	表したいイメージで自由に動きを工夫して踊り表現する 【自由に踊る創造的な学習】	ロックやサンバ、ヒップホップなどのリズムに乗って自由に友達と関わって踊る 【自由に踊る創造的な学習】	日本や外国の伝承された踊りを身に付けてみんなで一緒に踊って交流する 【再現して踊る定形の学習】
特性と関わる 重 点	イメージになりきって自由に踊る	リズムに乗って自由に踊る	踊りを共有して人と交流して踊る
主な技能の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 全身を使って大きさに表現(誇張)して踊る 変化を付けた「ひと流れの動き」で踊る(即興的な表現) 「はじめ—なか—おわり」の「ひとまとまりの動き」にして踊る(ひとまとまりの表現・作品) 	<ul style="list-style-type: none"> リズムに乗って全身で弾んで踊る リズムの特徴をとらえて、体幹部でリズムに乗って踊る 変化とまとまりをつけて連続して踊る 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なステップや組み方を身に付けて通して皆で踊る 踊りの背景や特徴を捉えて味わって(洗練させて)皆で踊る
工夫の視点や 楽 しみ 方	<ul style="list-style-type: none"> イメージと動きの多様な関わり 即興的な表現と作品創作の二つの楽しみ方 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽のリズムと動きの多様な関わり 相手との関わり方の工夫 交流会などの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 踊りの特徴や感じの違い 踊り方の難易度等(易しい—難しい、単純—複雑)



図1 長若中学校上演前の準備
(2015年3月14日 日本武神社祭り 筆者撮影)



図2 小鹿野中学校の歌舞伎上演
(2017年11月 歌舞伎・郷土芸能祭 筆者撮影)

3. 方法、結果、考察

3-1. 研究1

3-1-1. 方法

民俗芸能の学習は学校の授業の中でどのように行われているのかを探るため、小鹿野町の中学校で実践された歌舞伎学習の報告(小鹿野町教育委員会社会教育課による『第44～47回小鹿野町郷土芸能祭 歌舞伎・郷土芸能祭』(2014-2017)と、公益社団法人女子体育連盟機関誌「女子体育」(1993年～2016年)から民俗芸能の実施例を抽出し、その教育的効果について考察する。

3-1-2. 結果

公益社団法人女子体育連盟機関誌「女子体育」(1993年～2016年)から民俗芸能の実施例を抽出した結果、小学校の報告は10件あり、そのうち運動会での発表のみが3件、表現の授業のみが3件、体育と美術

での授業および運動会と学習発表会を行った事例が1件、表現の授業と学芸発表会が1件、表現の授業と運動会が1件、総合的な学習と卒業劇が1件となった(表4)。

中学校の報告は3件あり、そのうち2件は創作ダンスや体育授業のみ、他1件は体育授業と体育祭発表である(表5)。高等学校の報告は2件あり、1件は体育祭のみでの発表、他方は体育の授業と体育大会の発表である(表6)。

3-1-3. 考察

小学校では運動会や学習・学芸発表会で民俗芸能の実施が多くみられたが、これに関して2001(平成13)年に青森から沖縄までの10県624公立小学校1455学級に対する全国調査の結果をもとに日本民俗舞踊の実施状況を分析した国枝(2005)は、学校教育において民俗舞踊を教材として扱うカリキュラムは、学校行事が最も多く、体育科単元は25.3%に過ぎないことを指摘

している。機関誌「女子体育」にみられる小学校の実施報告を見ると、「津軽甚句を運動会で実施することで地域と学校、保護者が一体となって取り組み、教育的効果が見られた。」とか、「運動会の表現運動で児童の踊ったさんさ踊りは、その親や祖父母がかつて踊ったものであり、そこにいるすべての人々の心に充実感と一体感が生まれる。」といった指摘があるように、運動会で披露することによって一体感という大きな教育的効果が得られることがあると考えられる。

同様の指摘は中学校の実施報告でも見られ、「郷土に誇りを持つ生徒を育むため、中学校において『くば傘小』『カチャーシー』を授業で実践し体育祭で披露した。これにより地域と学校が一体となって盛り上がった。」と述べている。

筆者が追跡調査している小鹿野歌舞伎に着目すると、2002年から統廃合される2016年まで長若中学校では総合的な学習として、毎年3月に地元の日本武神社の祭りや町の歌舞伎・郷土芸能祭で上演したほか、町の養護老人秩父庄夏祭り、町の健康ふれあいフェスティバルや中学校での学習発表会などで上演した。この活動を通して、「人と人がつながることの大切さや、一体となって芝居を完成させる喜びを味わいました。また、小鹿野町で生活する人々の「生き方」を学ぶことができ、町を愛する心や、誇りを持って伝統や文化を継承する態度が養われるようになってきました。」(小鹿野町教育委員会社会教育課編)という報告がある。総合的な学習での実践により、一体感に加え、郷土愛、誇りを持って伝統や文化を継承する態度が養われることが報告されている。

高校での実施報告では、「高校の体育大会では、毎年民舞「関の鯛つりおどり」を披露している。指導法に工夫を重ね、学年を経るにしたがって踊ることの楽しみを見出す生徒が増えていく。」とか、「高校の体育祭で毎年ソーラン節が披露されており、その練習過程では生徒たちの意欲を高めるための様々な取り組みが行われている。」といった教育的効果についての記述がある。

「踊ることの楽しみを見出す生徒が増えていく」という記述からは、楽しみを見出すようになる過程で新たな身体感性を学んでいると推察されるが、その過程については「指導法に工夫を重ね」という記述にとどまっている。樋口(2003)が指摘するような新たな身体感性をどのように学ぶのかについての実践報告が期待される。

民俗芸能の学校での実践によって、体育の授業においては意欲的に取り組む態度や踊る楽しみが得られた。これは樋口(2003)の指摘を体現していると考えられる。運動会や発表会においては一体感や地域との連携の深化が得られた。このうち一体感は総合的な学習と共通する効果である。地域連携の深化は中村(2001)の指摘③を体現していると考えられる。総合的な学習においては郷土芸能への理解の深化や地元への誇りの確立が得られたが、これは中村(2001)の指摘①②を体現していると考えられる。

以上、研究1では民俗芸能を学校の授業で実践することの教育的効果について、いくつかの知見を得ることができた。

表4 小学校での民俗芸能の実践報告

平成	西暦	学習材(実施地)	授業領域	行事内容	対象学年
5	1993	はねこ(わらび座、宮城県)	体育、美術	運動会、学習発表会	中学年
9	1997	太鼓踊り(鹿児島県)	表現		中学年
9	1997	よさこいソーラン(北海道)	表現	学芸発表会	低学年
11	1999	城攻め踊り(宮城県)	表現		低学年
13	2001	獅子舞、棒踊り(高知県)		運動会	低学年
13	2001	津軽甚句(どだればち)(青森県)		運動会	全学年
14	2002	エイサー(沖縄県)	表現		
14	2002	八木節ワッショイ(茨城県)		運動会	全学年
14	2002	子ども歌舞伎『毛抜』(東京)	総合的な学習	卒業劇	
21	2009	さんさ踊り(岩手県)	表現	運動会	全学年

公益社団法人女子体育連盟機関誌「女子体育」(1993年～2016年)より

表5 中学校での民俗芸能の実践報告

平成	西暦	学習材(実施地)	授業領域	行事内容
11	1999	神楽(宮崎県)	創作ダンス	
13	2001	朴の木沢念仏剣舞	体育	
13	2001	琉舞「くば笠小」 「カチャーシー」 (沖縄県)	体育	体育祭

公益社団法人女子体育連盟機関誌「女子体育」(1993年～2016年)

表6 高等学校での民俗芸能の実践報告

平成	西暦	学習材(実施地)	授業領域	行事内容	対象学年
13	2001	民謡「関の鯛つり おどり」(大分県)	体育	体育大会	
17	2005	ロックソーラン節		体育祭	2年

公益社団法人女子体育連盟機関誌「女子体育」(1993年～2016年)

3-2. 研究2

3-2-1. 方法

研究1で得られた教育的効果が実際に浸透しているのかを検証するため、中学校で行われている歌舞伎学習の実態を取材し、校長や教諭へのインタビューと研究1の結果を踏まえた質問項目で中学生へのアンケート調査を行った。アンケート項目は、以下の観点から選択した。

「①努力を積み重ね、芝居を完成させて達成感を味わった」は、研究1では指摘がなかったが、達成感は歌舞伎体験学習で得られるべき教育効果のひとつと筆者は考え、選択した。「②仲間と協力することで一体感を味わった」は研究1で多く指摘されていることから重要な教育的効果と考え選択した。「③地域の人々から教わることで地域の人々の生き方を学ぶことができた」「④地域の方との交流によって町を愛する気持ちが養われた」「⑤誇りを持って伝統や文化を継承する態度が養われた」は歌舞伎体験学習の実践報告に記載されていた言葉であり、中村(2001)が指摘する教育的効果ともつながると考え、選択した。「⑥小笠原歌舞伎を学ぶ過程で新たな身体感性を会得できた(例えば:見得を切るときの首の振り方や腰の入れ方、セリフや動きのタイミングを取る際の呼吸、楽器を上手に演奏するコツ、黒子の身のこなし方のコツ、など)は樋口(2003)の指摘する教育的効果であるが、中学生が答えられるように具体例を多く示した。さらに「⑦会得した新たな身体感覚について具体的に説

明してください。」の項目で具体的な記述を依頼した。最後に「⑧そのほかに歌舞伎学習を通して感じたこと(例えば:仲間や地域の方々とかかわりの中で学んだこと、苦勞したこと、うれしかったこと、歌舞伎はあなたにとってどのようなものか、など)を自由に書いてください。」の項目で自由記述を依頼した。

3-2-2. 結果

小笠原中学校の歌舞伎学習は、2018年は以下の日程で行われた。

1回目6月20日:講師紹介、生徒の自己紹介、オリエンテーション、DVD視聴、役割分担(配役)決め。

2回目9月26日:演目のあらすじの確認、台本の読み合せ(役者以外の生徒も台本を見る)。

3回目10月3日:台本の読み合せ、実際に立ってセリフを言う(役者以外の生徒も流れを確認する)。

4回目10月10日:三味線を合わせて演技をする。

5回目10月24日:化粧練習。

6回目10月31日:本番と同じように動いて演技。

7回目11月7日:舞台稽古。

8回目11月18日:郷土芸能祭での発表。

9回目12月13日:振り返り(アンケート記入)。

筆者は2、6、8回目を取材した(表7)。

図3は「白波五人男」の役者の所作の練習風景で、実際に着物と小道具を身に付けて本番と同じように動いて演技した。図4は三味線の練習風景。図5はつけ、柀、太鼓の練習風景。図6は「口上」という演目の練習風景で、図7が「口上」の本番の様子である。

アンケート6項目について24人の中学生が、かなりそう思う4点、どちらかというと思う3点、どちらかというと思う2点、全くそう思わない1点、で評価した平均値と標準偏差は以下のとおりである。

①努力を積み重ね、芝居を完成させて達成感を味わった3.8 (SD 0.4)、

②仲間と協力することで一体感を味わった3.9 (SD 0.3)、

③地域の人々から教わることで地域の人々の生き方を学ぶことができた3.7 (SD 0.6)、

④地域の方との交流によって町を愛する気持ちが養われた3.6 (SD 0.6)、

⑤誇りを持って伝統や文化を継承する態度が養われた

3.9 (SD 0.3)、

⑥小鹿野歌舞伎を学ぶ過程で新たな身体感性を会得できた3.5 (SD 0.7)。

図8は平均値をグラフ化したもので、アンケート項目⑤②①は高得点を示した。③④⑥も高得点ではあるが上位3項目に較べると低得点を示した。

⑦会得した新たな身体感覚についての具体的な記述では、3名に記述がなかった。残り21名の記述は、動き、化粧、楽器、セリフ、感謝の5項目に大別された。項目ごとの記述は以下のようにまとめられる。

「動き」に関しては、新たに五人男のことを知り、いままで知らなかった動きを身に付けたこと。男っぽくするのが大変だった。セリフの後の動きのタイミングの会得。正座をしっかりとすることができ、礼儀正しくなった。大きく動く。昔の人の動きの理解。黒衣の幕の引き方、サポートのしかた。素早く行動することの大切さ。といった記述がみられた。

「化粧」に関しては、慣れない化粧の体験。自分で化粧ができるようになったこと。化粧の難しさなどの記述がみられた。

「楽器」に関しては、太鼓、つけ、柀、三味線の楽器を上手に演奏するコツについての記述がみられた。

「セリフ」に関しては、セリフの言い方。高くしたり強くいったりすること。発声方法や声の出し方についての記述がみられた。

「感謝」に関しては、指導者への感謝。感謝を忘れず行うこと。支えてくださっている方々がいて成り立っていると体感したこと。等の記述がみられた。

⑧そのほかに歌舞伎学習を通して感じたことの記述は、楽器、歌舞伎、総合的評価、化粧、動き、仲間、指導、練習過程、地域、達成感、披露、声、焦りの12項目に大別された。項目ごとの記述は以下のようにまとめられる。

「楽器」に関しては、三味線に関する肯定的な記述が3人にみられた。太鼓、つけ、柀の担当生徒からは緊張したがうまくできてよかったなどの記述があった。

「歌舞伎」に関しては、7人から歌舞伎への興味が深まった。改めて歌舞伎のすごさや細かさ、思いなどがわかり、より歌舞伎が好きになったなど肯定的な記述が見られた。

「総合的評価」では、すごく良い体験をすることが

できた。伝統を守ることはとても良いことだ。等の記述があった。

「化粧」に関しては、歌舞伎の化粧がとても難しい。おもしろい。等の記述がみられた。

「動き」に関しては、仲間と協力して動きを合わせることができてよかった。足首を回すところがありそれに苦労した。等の記述があった。

「仲間」に関しては、同じ学校の人との学習だったので楽しかった。みんなで一つの物を協力してつくるうれしさがわかった。仲間や地域の方々と関わり、とても楽しく会話ができるようになった。コミュニケーション力がより一層深まった。等の記述があった。

「練習過程」に関しては、練習ではグダグダだったけど、練習を重ねていくうちに成長していき、本番では成果が出せた。1週間に1度だったので忘れてしまう事が多く部活動で練習する時間がとれなくて苦労した。といった記述があった。

「地域」に関しては、秩父から引っ越してきて小鹿野のことを知らなかったけど、地域の方々のやさしさや、歌舞伎の良さを知った。歌舞伎学習を通して小鹿野町の文化に触れることができたのでよかった。という記述がみられた。

「指導」に関しては、丁寧に教えてもらってわかりやすかった。歌舞伎保存会の方々から教えていただき、歌舞伎が好きになった。大切なことをたくさん教わったので、これからも忘れず生かしていきたい。等の記述があった。

「披露」では、小鹿野町だけでなく、色んな地域の人に歌舞伎のすばらしさを知ってもらいたい。との記述があった。

「達成感」では、歌舞伎を成功させられた達成感がすごくありました。仲間と一緒に苦労をあげ、達成感を感じることが出来た。との記述があった。

「声」に関しては、本番大きな声が出せたのでよかった。

「焦り」に関しては、当日少し焦ってしまった。との記述があった。

校長へのインタビューでは、外部指導者招聘に関しては全面的な信頼関係の下に実施しており、学校側と外部指導者側の連携が良く取れていることがうかがえた。歌舞伎班担当教諭へのインタビューでは配役決めが大変で、生徒間でもめたとのことだ。

3-2-3. 考察

生徒たちへのアンケート項目の平均点はいずれも高得点なので研究1で期待された教育的効果が得られたと言えよう。さらに、⑦の生徒たちの記述からは期待以上の教育効果が得られていることが分かる。特に、「指導者へのありがたさ。感謝を忘れず行うこと。支えてくださっている方々がいて成り立っていると体感したこと。」といった感謝の気持ちの涵養は、地域ぐるみの活動だからこそ得られるものと言えよう。

今回の取材で感じたことは、2か月で歌舞伎を完成させて上演するのは短いということだ。スケジュール表を見ると練習回数は6回である。行事や中間テスト、県民の日のため例年より練習が3回少ないとのことだ。不足分を補うために三味線担当の生徒たちは夏休みに3回ほど練習を行った。役者担当生徒の中には経験者も何人かおり、読み合わせ時のせりふ回しがとても上手だった。しかし、本番と同じように動いて演

技する練習では歌舞伎独特の所作を会得するには時間がかかることを痛感させられた。

教諭からの発言にもあるように、配役決め調整などは外部指導者と中学校教諭との連携で決めていくことが大事だと感じた。さらに、不本意な配役の生徒も意欲がわくような配慮や工夫も必要と感じられた。

取材中に、経験者の生徒が初心者の生徒に「背筋ピンと」などと指摘すると、外部指導者が、「今日は初めてだからそんなに厳しく注意するな」とたしなめる光景があり、生徒たちの気持ちに寄り添って指導している様子が見られた。また、つけ担当の生徒に「下手な役者をうまく見せるのがつけの仕事だ。大事な役割だ。」と励ましてやる気を出させて指導する様子が印象的だった。校長の指摘する「全面的な信頼関係」をうかがわせる指導だと言えよう。

今後は民俗芸能を学校で実践する際の外部指導者の指導法について考察を深めたい。



図3 役者の所作の練習風景
(2018年10月31日 小鹿野町民体育館 筆者撮影)



図4 三味線の練習風景

(図4、5、6 2018年9月26日 小鹿野中学校 筆者撮影)



図5 つけ、柀、太鼓の練習風景



図6 口上の練習風景



図7 口上の本番
(2018年11月18日 小鹿野文化センター 筆者撮影)

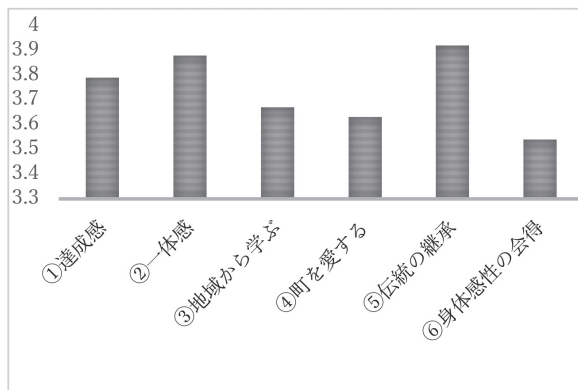


図8 アンケート6項目の平均
(中学生24人 1全くそう思わない～4かなりそう思う)

4. まとめ

本研究では2つの研究を行った。研究1では民俗芸能は学校でどのように学ばれているのか、またその教育的効果について文献をもとに調査した。その結果、体育の授業においては意欲的に取り組む態度や踊る楽しさが得られた。運動会や発表会などの行事においては一体感や地域との連携の深化が得られた。総合的な学習の時間においては郷土芸能への理解の深化や地元への誇りの確立が得られた。これらの教育的効果は先

行研究での指摘を体現する知見となった。研究2では中学校での歌舞伎体験学習の取材をし、研究1で得られた知見をもとに質問項目を作成し、歌舞伎体験学習を受講した中学生にアンケートを依頼した。その結果、中学生たちは伝統を継承することへの肯定感、一体感、達成感を強く感じており、地域への理解、郷土愛、新たな身体感性の会得を感じていることが判明し、期待通りの教育的効果となった。

文献

- 朴田香代2009「子どもが地域の伝統を「受け継ぐ者」にかわるとき～運動会での表現にみる「さんさ踊り」～」『女子体育』2. 14-19.
- 橋爪みすず2005「ロックソーラン節に見る生徒たちの躍動」『女子体育』1. 26-31.
- 樋口聡2013「武道とダンスを学校教育で教えることにより広がる可能性とは何か」『スポーツ社会学研究』21-1, 53-67.
- 菱田隆昭・岩川真紀2012「民謡」の学校教育への導入について―戦後教育改革期の「学習指導要領」を中心として―『子ども教育宝仙大学紀要』3.
- 藤田けい子2001「地域と手をとり合って」『女子体育』10. 33-35.
- 国枝タカ子2005、「小学校における民俗舞踊カリキュラムの全国調査」(日本学術協力財団編『学術会議叢書11 舞踊と身体表現』日本学術協力財団、2005年) 199-227.
- 巖岩淳子2001「大分県民謡に関する授業―「関の鯛つりおどり」について―」『女子体育』10. 40-43.
- 本村みどり2001「地域の素材を生かした体育祭の取り組み 郷土の踊り「くば傘小」「カチャーシー」」『女子体育』10. 36-39.
- 文部科学省2013「表現運動系およびダンス指導の手引き 学校体育実技指導資料」
- 中村恭子2001「地域の伝統芸能・踊りを教材化する意義」『女子体育』10. 28-29.
- 小鹿野町教育委員会社会教育課編2014-2017『第44～47回小鹿野町郷土芸能祭 歌舞伎・郷土芸能祭』
- 佐藤節子2015「小鹿野歌舞伎隆盛の仕組み―長若地区の伝承事例―」『埼玉女子短期大学研究紀要』33. 27-39.
- 佐藤節子・厚母宗子2018「民俗芸能の学校での実践の教育的効果についての一考察」『日本体育学会第69回大会』一般研究発表.
- 卯田卓矢2016「小学校における民俗芸能の継承活動と学校統廃合一岩手県一関市を事例として」『日本地理学会大会プログラム』100041.

(令和元年9月27日受理)

資料1 アンケートデータ

アンケート番号	1 全くそう思わない～4 かなりそう思う					会得した身体感覚	その他
	①達成感	②一体感	②地域から学ぶ	④町を愛する	⑤伝統の継承		
1	3	4	4	3	4	3	同じ学校の人とだったので楽しかった。丁寧に教えてもらってわかりやすかった。
2	4	4	4	4	4	4	練習では全然ツグググだったけど、練習を重ねていくうちに成長していき、本番では成果が出せたと思います。とても楽しかったし、歌舞伎ができてよかった。
3	4	4	3	3	4	4	最後、まぐがしましたがあの太鼓をはたいたのができてよかった。
4	4	4	4	4	4	4	ぼくはツグググでちょっとむずがしかったけれどもうまくいってうれしかったです。
5	4	4	4	4	4	4	仲間とかかわりや動きを合わせるなどがまちまちでうまくいってよかったこと。とてもいいいけいけんになりました。
6	4	4	4	4	4	4	仲間や地域の方々や、とても楽しく会話ができるようになった。コミュニケーション力がより一層深まった。歌舞伎の中の動きなどを合わせるのが大変だったけれど、他の人や仲間と協力して動きを合わせることでよかった。歌舞伎を成功させられた達成感がすごかったです。
7	3	4	4	3	4	4	床文から引越してきて小龍野のことを知らなかったけど、地域の方々や、高レベルで良い歌舞伎の良さを知った。
8	4	4	4	4	4	4	足首を回すところがありそれに苦労しました。
9	4	4	4	4	4	4	初めて歌舞伎にふれて、歌舞伎がみじかになりました。
10	4	4	4	4	4	4	歌舞伎学習を通して小龍野の文化に触れることができたのでよかった。これからは三味線を弾く機会があればまた引きたい。良い経験になったのでよかった。
11	4	3	4	4	4	4	1週間ほどだったのを忘れてしまいう事がある。語学で練習する時間と比べると苦勞した。でも本番はスムーズに指が動きノーマスでひくことができたのでうれしかった。三味線を身近に感じ味わうことができた。
12	4	4	4	4	4	4	仲間と一緒に苦勞を味わい、達成感を感じることが出来た。歌舞伎は自分にとって大切なことだとわかった。
13	4	4	4	4	4	4	この学習を通して、みなさんの場面で私たちの歌舞伎をひき分けて見てもらい、小龍野町だけでなく、色んな地域の人にかたむかすのすばらしさを学べました。
14	4	4	4	4	4	4	歌舞伎のメイクはとても難しかったです。とても楽しんでました。歌舞伎は、とってもいいなと思っていたけど本番はとっても大変だったので、実際に自分がやってみて思いました。
15	4	4	4	4	4	4	自分は歌舞伎を見たこともなかったけどセリフやメイク、衣装などをやり、すごく良い体験をすることができました。これから歌舞伎をやる機会はないかもしれないけれど、少しでも多くふれあっているようにしていきたいです。
16	4	4	4	4	4	4	今までずっと見る側でカッコイイな、とかすごいな、など素直に思っていたけど、今回も自分もやってみて、今回はやる側をやらせてもらって改めて歌舞伎のすごさや細かさ、思いなどがわかり、より歌舞伎が好きになりました。大切なことをたくさん教わったので、これからは自分も覚えたいです。
17	4	4	3	3	4	4	歌舞伎保存会の方々や打ち方がよくわかった。
18	4	4	3	3	4	4	私は小学校の頃歌舞伎をやっていた。役者しかやっていたことなかったけど、今回の総合の授業で三味線を体験することができました。もともとこれからは、三味線を弾く機会があったら三味線を弾きたいです。授業で三味線を弾んでよかった。
19	3	3	2	2	4	2	でんどうをまもることはとてもよいことだと思います。
20	3	3	2	3	3	2	化粧がとても難しかったです。
21	4	4	4	4	4	4	歌舞伎に対して興味が増えました。
22	3	4	3	3	3	3	当り少し焦ってしまいました。本番大きな声が出せたのでよかった。
23	4	4	4	4	4	4	みんな一つ一つの物を磨かしてつくるうれしさがわかった。
24	4	4	4	4	4	4	けしように上手な人とかにやってみて上手だったからへんふうにけしようになっちゃった人がいたしと考えると考えたらおもしろかった。